

NEJIREBANE No. 110, 31.Aug. 2004

## 日本のカクホソカタムシ科序説——属への検索

An introduction of the Japanese Cerylonidae (Cucujoidea), with a key to genera

By Hiroyuki SASAJI

佐々治寛之

〒910-0206 福井県坂井郡丸岡町川上10-34

カクホソカタムシ科 Cerylonidae は邦産11属16種の小さな科で、体長も小さく(1.2-3.7mm)、あまり魅力的な甲虫ではない。しかし、分解して詳細に調べてみると、楽しむのに十分な構造を示してくれる。また、カクホソカタムシ科は、テントウムシダマシ科、テントウムシ科、ミジンムシ科などとともにカクホソカタムシ科群 Cerylonid family-group を形成する。これら9-10科のうち、比較的良く研究されているのはテントウムシ科だけで、今後の研究に期待される。今回カクホソカタムシ科を紹介する理由は、S. A. ŚLIPÍŃSKI (1990) の大著「世界のホソカタムシ科の総説, Part I -序説と高次分類」(273頁) が出版されたことによる。Part II 以降は刊行されていないが、大綱を知るのにはこの1冊で充分である。100頁余りの詳細な解剖図・全形図は全くすばらしい。私は1985年に「原色日本甲虫図鑑 (III)」でカクホソカタムシ科を担当したが、属の取扱いなどは全面的な改訂を必要とし、今後大幅な知見の追加が予想されるので、諸兄姉の協力を期待して、属までの検索表を作成した。主な内容は上記モノグラフ序説に準拠したものである。

本題に先立って、属名 *Cerylon* の性について説明しておく必要がある。多くの著書で *Cerylon* を中性として取扱っているが、*Cerylon* 属の原著者 LATREILLE は男性として用いており、その理由について ŚLIPÍŃSKI も説明している。したがって、関連学名の種小名の語尾変化に留意する必要がある。*Afrorylon*, *Paraerylon* なども同様に男性とされている。

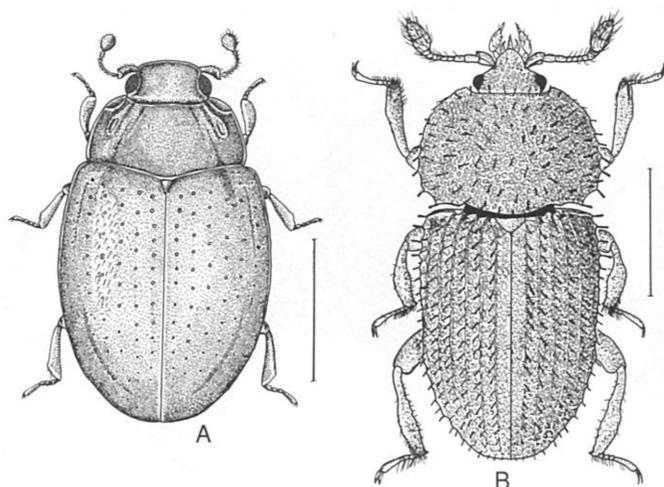


図1.

A: チビマルホソカタムシ  
*Murmidius ovalis* (BECK)  
B: ムネビロカクホソカタムシ  
*Cautomus hystriculus*  
SHARP  
スケールは0.5 mm.  
(ŚLIPÍŃSKI, 1990より)

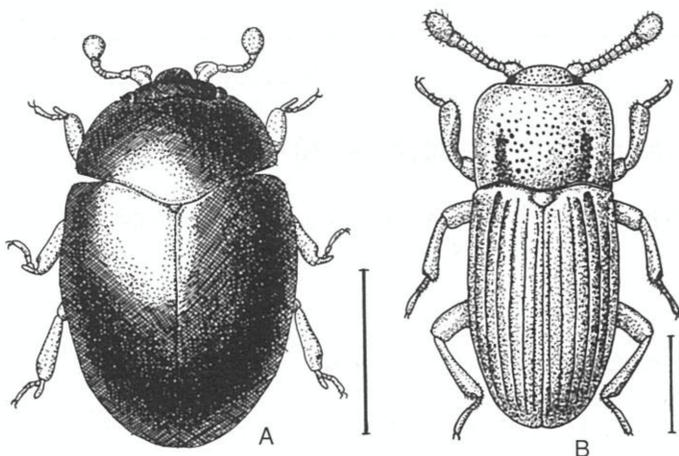


図2.

A: パークホソカタムシ  
*Euxestus parki* WOLLASTON  
B: ツシマカクホソカタムシ  
*Afrorylon shibatai* (SASAJI)  
(原図)

日本産カクホソカタムシ科の亜科の検索表

1. 前頭頭盾会合線は顕著. 小顎肢と下唇肢の末端節は長く, その前節よりも著しく細くない. .... 2
  - 前頭頭盾会合線を欠く. 小顎肢と下唇肢は細長く, その末端節は著しく細い円錐形で, その前節は太く膨隆する. ....カクホソカタムシ亜科 Ceryloninae
  2. 前脚基節窩は外方に開き, 前胸腹板突起の側縁は平行. 後胸腹板と腹部第1節に腿節線がある. 付節第1節は単純で下前方に突出せず, 第2・3節の和よりも短い. 触角末端節は卵形の球桿をなす. 前胸背板の前角に触角球桿をおさめる深いくぼみがある. .... マルホソカタムシ亜科 Murmidiinae
  - 前脚基節窩は外方に閉じ, 前腹板突起は先方に拡がる. 後胸腹板と腹部第1節に腿節線はない. 付節第1節は下前方に突出し, 第2・3節の和よりも長い. 触角末端節は扁平大形の球桿をなす. 前胸背板前角は単純. .... ツヤホソカタムシ亜科 Euxestinae
- 日本にはチビマルホソカタムシ *Murmidius ovalis* (BECK, 1817) の1属1種を産する. 体長1.2-1.4 mm (図1A)
- 日本にはパークホソカタムシ *Euxestus parki* WOLLASTON, 1858 の1属1種を産し, トカラ列島, 石垣島に分布する. 体長2.0 mm (図2A).

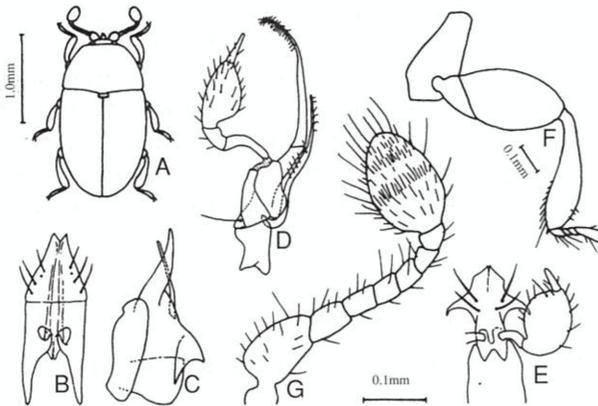


図3. ナガマルホソカタムシ *Mychocerus orientalis* (SASAJI). A: 背面全形図; B: 上唇; C: 大顎; D: 小顎; E: 下唇; F: 後脚; G: 触角.

1.0 mmスケールはA, 短い0.1 mm はF, 長い0.1 mmは残りの図に適應.

(SASAJI, 1983 より)

日本産カクホソカタムシ亜科 Ceryloninae の属の検索表

1. 触角球桿は2節から成り, 先端節に2-4個の感覚付属物を有する. 口器は吸収型で, 下唇は前方に針状に突出する. 前胸背板の側縁は凹凸で, 刺毛を有する. 鞘翅は粗雑に点刻される. 前胸腹板は中央部が前方に膨隆する. 背面の疎生毛は先方に太まり切断状. .... *Cautomus* 属  
日本に1種分布し, ムナビロホソカタムシ *C. histriculus* SHARP, 1885 は 1.8-2.5 mm (図1 B).
- 触角球桿は1節または2節からなり, 先端部に感覚付属物はない. 口器は吸収式でないか, 吸収式であっても, 針状に突出することはない. .... 2
2. 前胸腹板の前側方に深い触角窩がある. 前胸腹板の中央部は膨隆する. .... 3
- 前胸腹板に顕著な触角窩はなく, 中央部はほぼ平坦. .... 5
3. 前胸背板に2対の深い凹みがあり, 前胸腹板の深い触角窩は膜だけで隔てられる. 後胸腹板と腹部第1節腹板に弧状の腿節線はない. 前胸背板と鞘翅は荒く点刻され, 先端が切断状の刺毛を疎生する. .... *Thyroderus* 属  
日本に1種分布し, アナムネカクホソカタムシ *T. porcatus* SHARP, 1885 は 1.4-1.7 mm.
- 前胸背板と鞘翅は平滑で, 微細に点刻される. 後胸腹板と腹部第1節に弧状の腿節線がある. .... *Mychocerus* 属  
日本に1種分布し, ナガマルホソカタムシ *M. orientalis* (SASAJI, 1993) は 1.7-1.9 mm, 本州 (図3)
4. 鞘翅の第5条溝は肩部近くで深く印刻される. 大形. 脛節はふつう. .... *Afrorylon* 属  
日本に1種分布し, ツシマカクホソカタムシ *A. shibatai* (SASAJI, 1983) は 3.7 mm (図2 B).
- 鞘翅の第5条溝は肩部近くで特に深くならず, 第4・6条溝とほぼ同様. 小形. 脛節は各脚とも先方に向って顕著に太まる. .... *Philothermopsis* 属  
日本に1種分布し, アシブトカクホソカタムシ *P. crassipes* (SHARP, 1885) は 1.5-2.0 mm.
5. 前胸腹板突起は先方に拡がり, 前胸基節窩は外方に閉じる. 前脚脛節は多少とも先方に拡がり, 外先角は明らかに歯状に角張る. .... 6
6. 体表はほとんど平滑で, 扁平. 爪間板がある. 体は通常細長い. .... *Cerylon* 属  
カクホソカタムシ *C. sharpi* NAKANE, 1963 は 1.5-2.0 mm, 本州・四国・九州に分布する.
- 体表はまばらに, 明らかに被毛. 爪間板はない. 体はふつう広卵形. .... *Paracerylon* 属  
日本にはヨコムネカクホソカタムシ *P. curticolis* (SHARP, 1885) (九州 [1.5 mm]) とケナガカクホソカタムシ *P. tokara* NAKANE, 1963 (トカラ列島 [2.5 mm]) が分布する.
7. 前胸背板側縁は鋸歯状で, 明瞭な縁取りはない. 前胸背板の表面は浅く, 粗く, つながった点刻に覆われ, その点刻の中央に刺毛を有する. .... *Ectomicrus* 属

- 日本には1種分布し、アラメカクホソカタムシ *E. rugicollis* SHARP, 1885 は 2.5–2.7mm, 本州・四国・九州。
- 一 前胸背板側縁は通常滑らかで、縁取りは強いが微弱。前胸背板の表面の点刻は弱く、単純。…………… *Philothermus* 属
- 日本に5種分布し、チビカクホソカタムシ *P. minimus* (SHARP, 1885) (北海道, 1.3mm), ダエンカクホソカタムシ *P. depressus* SHARP, 1885 (北海道・本州・四国・九州, 1.8–2.2 mm), ヤクダエンカクホソカタムシ *P. elongatus* NAKANE, 1984 (屋久島, 2.4 mm), アメイロカクホソカタムシ *P. pubens* (SHARP, 1885) (本州・四国・九州, 2.1–2.4 mm), ヤマトカクホソカタムシ(新称) *P. japonicus* ŚLIPINŃSKI, 1988 (四国)。

<参考文献>

- NAKANE, T. 1967. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XXVI Cucujoidea. Frag. Coleopterol. (18): 73–74.
- NAKANE, T. 1984. On the Coleoptera occurring in Yaku-shima Island. In: Conservation Reports of the Yaku-shima Wilderness Area, Kyushu: 587–631.
- SASAJI, H. 1983. Contribution to the taxonomy of the superfamily Cucujoidea (Coleoptera) of Japan and her adjacent districts, I. Mem. Fac. Educ. Fukui Univ., Ser. II, Nat. Sci., 33 (2): 17–52.
- 佐々治寛之 1985. カクホソカタムシ科. 黒沢・久松・佐々治 (編著), 原色日本甲虫図鑑 (III): 233–235. 第38図版. 保育社, 大阪.
- SHARP, D. 1885. On the Colydiidae collected by Mr. G. Lewis in Japan. Linnean Soc. J. Zool., 19: 58–84.
- ŚLIPINŃSKI, S. A. 1988. On the Cerylonidae (Coleoptera, Cucujoidea) of Japan. Rev. suisse Zool. 95: 145–149.
- . 1990. A monograph of the world Cerylonidae (Coleoptera; Cucujoidea) Part I — Introduction and higher classification. Ann. Mus. Civico Stor. Nat. 88: 1–273.

付記: ŚLIPINŃSKI, S. A. (1990)の Part II が 2003年に刊行されたが、日本産の種は含まれていない。

\*\*\*\*\*

## 田中 勇氏蒐集のコメツキムシ (続報)

On the Elaterid-beetles collected by Mr. Isamu Tanaka (2)  
By Takashi KISHII

岸井 尚

〒569-1044 大阪府高槻市土室1-10, 6-410

本誌のNo.100 (2002年1月10日発行)で、西宮市の田中 勇さんからご依頼の、珍希種が多数含まれた極めて興味あるコメツキムシ資料の同定結果を報告した。その後も例会などでお会いするたびに、驚きを禁じ得ない種が多く含まれた資料を常に拝見させて頂いているが、今回報告する2001年末の学会時にお預かりしたのものの中には、本当に驚かせる飛びきりの一品とも言うべき種を見出し、検鏡して吃驚すると共に、その後しばらくその所属について色々悩ませることとなった。

この検討時、大分県白杵市在住の堤内雄二さんより、資料面での厚意あるご援助を頂き、この種の筆者の研究に大変役立った。なお、今回の報告には2002年3月の例会時にお預かりした資料も含めたが、いずれからも分布記録などで面白いものが見出された。改めて両氏には尽きぬ謝意を表したい。前回同様、採集者名の無いものは全て田中さんの採集されたものである。

### *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* (MOTSCHULSKY, 1861) サビキコリ

大阪府三島郡島本町大山崎桂川右岸, 1♀, 18.VI.2000; 同・豊能郡能勢町深山, 3♀♀, 1.VIII.2001; 鹿児島県屋久島分山, 1♂, 15.VII.1992.

### *Agrypnus (Agrypnus) mikawaensis* ÔHIRA, 1986 ミカワサビキコリ (写真1)

奈良市春日山, 4♂♂, 17.V.1992; 2♂♂, 15.VI.1992; 1♂, 2.VI.1993; 1♀, 7.VI.1993; 3♂♂, 11.VI.1993.

前種によく似ており、紛らわしい種であるが、よりスリムな体形で、特に前胸の幅が狭く後角も側方への張り出しが弱く、背板にある1対の隆起状突起は小さいが前種より明瞭で、突起間の間隔はやや狭い。筆者(1961: 23)が前種の異常型として報告した *ab. tenuicollis* は本種である。近畿地域では滋賀・京都・奈良から得られており、前種より少ないが、春日山ではむしろ本種の方が多く見られる。

***Agrypnus (Agrypnus) cordicollis* (CANDÈZE, 1865) ムナビロサビキコリ**

広島県佐伯郡宮島町, 1♂, 11.IX.1992.

***Agrypnus (Colaulon) tsushimensis tsushimensis* ÔHIRA, 1986 ツシマヒメサビキコリ**

大阪市東淀川区柴島淀川右岸, 2 exs., 7.X.2000; 2 exs., 18.XI.2000.

前回の報告(2002: 2)でも触れたように、大阪湾沿岸に広く分布していることが河上・稲畑(2000: 19)により解明されたが、今回の記録のように、湾岸よりだいぶ内陸の淀川畔にも棲息範囲が広がっているようで、大変興味深いことである。

***Lacon (Lacon) parallelus parallelus* (LEWIS, 1894) コガタノサビコマツキ**

兵庫県神戸市北区谷上, 1 ex., 18.I.1993; 同・宝塚市境野丸山湿原, 1♂, 4.X.2000.

筆者の知る限りでは、兵庫県からの本種の記録はこれが初めてとなるようである。近畿では滋賀県からも未知であるが、隣接する京都府下での採集記録はむしろ豊富である。

***Lacon (Alaotypus) maeklinii maeklinii* (CANDÈZE, 1865) オオサビコマツキ**

大阪府貝塚市和泉葛城山, 1♀, 16.VI.2001.

***Cryptalaus larvatus pini* (LEWIS, 1894) フタモンウバタマコマツキ**

鹿児島県屋久島粟生浜, 1♀, 14.VII.1992.

***Limoniscus imitans* (LEWIS, 1894) タテジマカネコマツキ**

大阪府箕面市下止々呂美, 1♂, 11.V.1996.

本種と近似の *L. vittatus* タテスジカネコマツキとは、極めて酷似した体形と色彩をもつので、ひところ同種間の性差か個体変異と見なすむき(MIWA, 1934: 106)もあったようであるが、本種はやや小型で前胸背板点刻がより疎、点刻間は明瞭に離れており、その間隔と点刻直径はほぼ等しく、隣接する点刻が網目状に癒合状態になる後者と区別できる。また、上翅の黄色縦斑は一般に両種共に雌で幅広く明瞭で、雄では肩部のみの個体が多い。本種はLEWISによって箱根宮ノ下で得られた3頭の雄で記載され、その後この名で種として報告された例は少なく、タテスジカネの変異として発表された記録も多くない。それらを含めて現在まで *imitans* 名で知られる分布域は、岩手・栃木・群馬・神奈川・新潟・山梨・三重・京都・和歌山・兵庫・福岡くらいであるが、*vittatus* で報告されているものも多いと思われる。今回の大阪は初めての記録となるが、筆者は他に福島・滋賀・奈良・鳥取・高知などの資料も検している。

***Limoniscus yamato* KISHII, 1998 ヤマトカネコマツキ**

福井県大飯郡高浜町青葉山, 2♂♂, 29.V.1993.

従来、本州以西に広く分布する本種は、LEWIS (1894: 194) が北海道の蕁菜沼近辺からの資料で記載した *L. niponensis* ニホンカネコマツキと同種として扱われていたが、筆者(1998: 2-7)は後者の本州での分布は疑わしく、少なくとも2種の別種の分布が認められるとして、それぞれを新しく記載した。しかし、*L. niponensis* が東北地方の北部に分布する可能性はあるかもしれない。

***Athousius* sp. ヨドホソツヤコマツキ**

大阪府三島郡島本町大山崎桂川右岸, 4♂♂, 18.VI.2000; 同・淀川河川敷公園, 2♂♂, 8.VI.2001.

今回検した多くの資料中で本種を検鏡したとき、とっさにはその所属、それも亜科名または族名レベルがはっきりしないので少々混乱したが、多くの近縁種を検討した結果、*Athousius* ホソツヤコマツキ属の未記載種とした。この属はカネコマツキ亜科の中でカネコマツキ族に所属し、

本邦では山地に広く分布する *A. humeralis* カタモンホソコメツキが近縁種であるが、これとは頭部構造で無視できない大きな差異点があり、この違いはふつう亜科または族を判定する際の重要な特徴差なので、属の決定に困惑したものである。カネコメツキ亜科の中でカネコメツキ族は、ツヤハダコメツキ族と共に頭部の前頭縁線は完全で中央部が消失することはなく、一方、この亜科での大きなグループであるヒラタコメツキ族では、常に不完全で全く認められないか少なくとも中央部では完全に消失する。一方、桂川で発見された本種では明確に中央部が消失して、触角窩上方部のみ強く隆起状で、これは明らかに後者の重要な特徴で、カタモンホソでは前頭縁線は完全で、これはまた前者の重要な特徴である。

本属の種は中国南部にやや多くの種が分化し、台湾にも未記載種を含め複数の種が分布している。属の基本種は中国南部産の *A. holdereri* という種で、これは邦産のカタモンホソを小型にした形態のよく似た種で、これの前頭縁線は興味あることに中央で消失気味であるが一応完全といえる構造である。本種の検討中に臼杵市の堤内雄二さんのご好意で、湯布院町で得られた九州固有の本属の種 *A. kitanoi* キタノホソツヤコメツキを検査する機会を持ち得たが、これと上記の桂川畔で採集された資料の頭部構造が全く同じ特徴をもつことが分かった。両者は形態・色彩・生息状況・雄生殖器構造などがよく似ており、極めて近縁の種であることは明白であるが、雄生殖器の形状には明瞭な差異点があり、互いに明らかな別種である。このような興味ある種を桂川と淀川に分岐点の、葦の多い何の変哲もない平地の河岸で発見され、快くその検討を筆者に託された田中勇さんには深い謝意を表し、近く発見者に因んだ新名で発表する予定をしている。

後記：脱稿後、本種は昆虫学評論 Ent. Rev. Japan 59(1): 61-63 で新種 *Athousius isamutanakai* ヨドホソツヤコメツキとして記載された。

***Scutellathous sasajii* KISHII, 2001** ホソアカツヤコメツキ

奈良県吉野郡上北山村和佐又山, 2♂♂, 28.VII.2001.

近縁の *S. comes* チャイロツヤハダコメツキや、別属の *Megathous suturalis* フトツヤハダコメツキと混同されていたことが多かった種であるが、最近に分離し記載したものである。これまでに判明している確実な分布域は三重・京都・奈良・和歌山・高知・宮崎であるが、最近、野村英世さんのご好意で頂いた新潟県の資料を検したので記録しておく。1♀, Mt. Hiuchi, Echigo, 5.VIII.2001, H. NOMURA leg. (新潟県中頸城郡妙高高原町火打山)。

***Stenagostus umbratilis* (LEWIS, 1894)** オオツヤハダコメツキ

京都府舞鶴市与保呂谷, 1♀, 28.VII.1993; 兵庫県養父郡大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 5♀♀, 19.VII.2000.

***Megathous suturalis* (CANDÈZE, 1873)** フトツヤハダコメツキ

奈良県吉野郡上北山村和佐又山, 3♂♂, 28.VII.2001; 兵庫県養父郡大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♂, 31.VII.1996.

***Medakathous jactatus jactatus* (LEWIS, 1894)** メダカツヤハダコメツキ

和歌山県伊都郡高野山町高野山, 1♂, 29.VII.1992.

***Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus secessus* (CANDÈZE, 1873)** クロツヤハダコメツキ

京都府舞鶴市与保呂谷, 1♂1♀, 28.VII.1993; 奈良県奈良市春日山, 1♀, 12.VI.2000; 同・吉野郡上北山村和佐又山, 3♀♀, 28.VII.2001; 兵庫県養父郡大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 4♂♂1♀, 27.VII.1993; 同・養父郡関宮町福定, 2♂♂1♀, 27.VII.1993.

***Hemicrepidius (Hemicrepidius) sinuatus sinuatus* (LEWIS, 1894)** コクロツヤハダコメツキ

奈良県奈良市春日山, 1♀, 3.VII.1997; 同・吉野郡上北山村和佐又山, 2♂♂, 28.VII.2001; 兵庫県養父郡大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♂, 27.VII.1993; 徳島県那珂郡木沢村高城山, 1♂; 13-14.VII.1996.

***Hemicrepidius (Hemicrepidius) kibane* KISHII, 1989** キバネツヤハダコメツキ

兵庫県養父郡大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♂, 27.VII.1993; 1♀, 4.VIII.1993.

本種は兵庫県の出石高校や豊岡高校で永く教鞭をとられ、兵庫県北部の昆虫相を生徒諸君と共に精力的に調査発表 (1964, 1975a, 1975b, 1976, 1978, 1982) されていた高橋匡さんが、氷ノ山と扇ノ山近傍で多数採集されていた資料を、同定のために筆者に依頼された時に見出したものである。当時 (1963-82)、筆者は対馬で得られた近似の種に基づき、新名 (*H. terukoanus* チャバネツヤハダコメツキ) を付した種と同じと見ていたが、精査の結果これとは全く異なる独立の別種であるとの確信で、上記の名を付したものである。現在、本種は新潟から大分の7県からの資料を検しているが、前報 (2002: 3) でも述べたように、特に氷ノ山と扇ノ山周辺では極めて多くの個体が採れている。

- Hemicrepidius (Hemicrepidius) desertor desertor*** (CANDÈZE, 1873) ヒメクロツヤハダコメツキ  
奈良県吉野郡上北山村和佐又山, 1♀, 28.VII.2001; 和歌山県伊都郡高野山町高野山, 1♀, 28.VII.1992.
- Hemicrepidius (Miwacrepidius) subcyaneus*** (MOTSCHULSKY, 1866) ルリツヤハダコメツキ  
京都府舞鶴市与保呂谷, 1♀, 6.VII.1993.
- Actenicerus pruinosus*** MOTSCHULSKY, 1861 シモフリコメツキ  
岐阜県武儀郡板取村, 1♂, 1.VI.1993, 森正人 leg.; 大阪府箕面市下止々呂美: 1♂1♀, 11.V.1996; 兵庫県小野市青野ヶ原, 1♂, 1.XII.1997.
- Actenicerus kiasianus*** (MIWA, 1928) ホソシモフリコメツキ  
福井県大飯郡高浜町青葉山, 1♀, 26.V.1993.
- Actenicerus aerosus aerosus*** (LEWIS, 1879) ヘリアカシモフリコメツキ  
福井県大飯郡高浜町青葉山, 1♀, 29.V.1993; 大阪府豊能郡豊能町高代寺, 1♂, 13.IV.1997.
- Calambus mundulus*** (LEWIS, 1879) チャグロヒラタコメツキ  
長野県西筑摩郡福島町(木曾福島), 1♀, 6.VIII.1982, S.桑原 leg.
- Calambus japonicus*** (FLEUTIAUX, 1902) クロツヤヒラタコメツキ  
京都市左京区貴船溪谷, 1♀, 22.I.1992; 兵庫県宍粟郡波賀町赤西溪谷, 1♀, 24.XII.2000.
- Neopristilophus serrifer serrifer*** (CANDÈZE, 1873) アカヒゲヒラタコメツキ  
福井県大飯郡高浜町青葉山, 1♂, 26.V.1993; 奈良県奈良市春日山, 1♂, 17.V.1992; 1♂, 20.V.1992; 1♂, 2.VI.1993; 1♂, 18.V.2000; 2♂♂, 24.V.2000; 大阪府貝塚市和泉葛城山, 1♂, 16.VI.2001; 兵庫県宍粟郡波賀町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♂, 19.VIII.2000, 岡崎国男 leg.
- Selatosomus (Eanoides) puerilis*** (CANDÈZE, 1873) シリプトヒラタコメツキ  
和歌山県日高郡龍神村護摩壇山, 1♂, 23.I.1982, S.桑原 leg.
- Megapenthes opacus*** CANDÈZE, 1873 ムネアカツヤケシコメツキ (写真5)  
奈良市春日山, 1♀, 3.VII.1997; 1♀, 23.VI.2000.
- Procraerus cariniceps*** (LEWIS, 1894) クロホソキコメツキ  
奈良市春日山, 1♀, 27.IV.2001.
- Agaripenthes helvolus*** (CANDÈZE, 1873) ヒメホソキコメツキ  
奈良市春日山, 1♀, 23.VI.2000.
- Hayekpenthes pallidus pallidus*** (LEWIS, 1894) ホソキコメツキ  
鹿児島県屋久島栗生浜, 1♀, 14.VII.1992.
- Haterumelater bicarinatus bicarinatus*** (CANDÈZE, 1873) チャイロコメツキ  
奈良市春日山, 1♂1♀, 19.VII.1997; 1♀, 26.VII.2000; 兵庫県養父郡大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 2♂♂, 31.VII.1996; 高知県室戸市室戸岬最御崎寺, 1♂, 10.II.1997 (材中)-15.II.1997 (脱).
- Haterumelater bicarinatus yaku*** KISHII, 1978 ヤクチャイロコメツキ  
鹿児島県屋久島半山, 1♂, 15.VII.1992.
- 種としては本邦全土で見られ、採集個体の殆どは燈火に來集したもののようで、照葉樹林の発達する地域に多い。離島など島嶼では極めて多くの個体が見られ、屋久島のものをはじめ、5亜

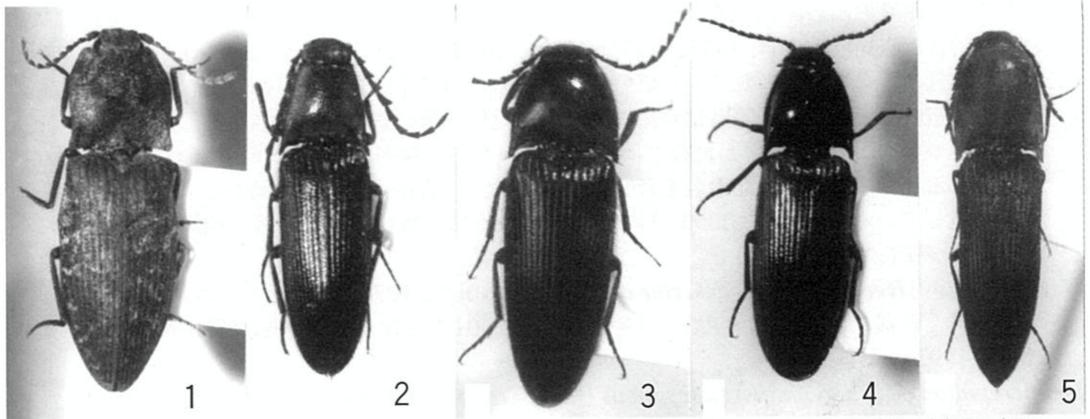


写真 1-5. 1. ミカワサビキコリ (♂, 奈良市春日山, 13.9 mm); 2. ムネアカクロコメツキ (♂, 兵庫県関宮町福定, 8.3 mm); 3. アメイロコメツキ (♂, 兵庫県大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 10.8 mm); 4. ミヤマアカコメツキ (♀, 兵庫県大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 9.9 mm); 5. ムネアカツヤケシコメツキ (♀, 奈良市春日山, 11.8 mm).

種が知られている。

***Kometsukia vesticornis* KISHII, 1957** アメイロコメツキ (写真3)

兵庫県養父郡大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♂, 19.VIII.2000, 岡崎国男 leg.

北海道から九州及び対馬・屋久島まで広く分布域が知られているが, 関西圏では三重・奈良からの記録があるのみで, 兵庫県からはこれが初めてと思われる。

***Ischnodes sanguinicollis maiko* W. SUZUKI, 1985** ムネアカクロコメツキ (写真2)

兵庫県養父郡関宮町福定, 1♂, 27.VII.1993.

北海道から福岡まで13道府県の記録例があるが, 何れでも局所的なものようで珍しい種である。関西圏では, 三重・滋賀・京都・兵庫から知られている。京都では冬季, ケヤキの樹皮下で越冬中のものを複数個体採集したこともある。

***Ampedus (Miwaelater) carbunculus* (LEWIS, 1879)** ヒメクロコメツキ

福井県大飯郡高浜町青葉山, 4♀♀, 29.V.1993; 京都府舞鶴市与保呂谷, 1♂, 10.VII.1993; 1♀, 28.VII.1993; 奈良市春日山, 1♀, 17.V.1992; 1♂, 11.VI.1993; 大阪府箕面市下止々呂美, 1♂, 11.V.1996; 兵庫県宝塚市武田尾武庫川, 1♀, 9.V.2001.

***Ampedus (Ampedus) alticola alticola* SILFVERBERG, 1977** ミヤマアカコメツキ (写真4)

兵庫県養父郡大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♀, 4.VIII.1993.

一般に中部・関東・東北の山地に分布する種で, 北海道には別亜種が知られている。近畿地域では和歌山から本種の旧名 *A. montanus* の名で護摩壇山の記録例が有るのみで, 筆者はこれまでこの記録 (平松, 1977: 70) はやや疑わしいと考えており, 近畿地域以西の分布はないと見ていたが, 今回の資料は貯精囊内の刺状突起の形状・本数ともに上記各地の資料のものによく一致し, 外部形態も同じであり, 本種であることは間違いない。それで資料を検討せねば決定できないが, 和歌山での分布も有りうるかも知れない。

***Ampedus (Ampedus) orientalis* (LEWIS, 1894)** アカコメツキ

奈良県吉野郡天川村彌山, 1♀, 31.X.1992; 同・奈良市春日山, 1♀, 2.XII.1992; 和歌山県日高郡龍神村護摩ノ壇山, 1♀, 18.VII.1982, S. 桑原 leg.; 大阪府貝塚市和泉葛城山, 1♀, 16.VI.2001.

***Ampedus (Ampedus) sp.*** アカコメツキの一種

奈良市若草山, 1♀, 27.VI.1997.

色彩・形態共に前種によく似ているが, 貯精囊内の刺状突起が極めて頑丈, 約40本で少々異なる。

る。あるいは同種内の変異の範疇にはいるかも知れないが、資料が1頭のみなので早急な決定は控えたい。

*Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (CANDÈZE, 1873) アカハラクロコメツキ  
兵庫県神戸市北区谷上, 1♀, 18.I.1993.

*Ampedus (Ampedus) hypogastricus kosugi* KISHII, 1982 ヤクアカハラクロコメツキ (写真6)  
鹿児島県屋久島半山, 1♀, 15.VII.1992.

屋久島に棲息する本種は本土産のものに比べ、明確に肥厚した体形と体毛の赤味が強いので区分しやすいが、両性生殖器の構造では更に明瞭に両者の差異が認められる。

*Dalopius bizen* KISHII, 1984 チュウゴクナカグロヒメコメツキ  
兵庫県養父郡大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 1♂, 31.VII.1996.

本種は記載時、兵庫県産(音水と氷ノ山)の3頭(2♂♂, 1♀)の個体もパラタイプに指定されたが、兵庫県下では今回の資料産地である氷ノ山坂ノ谷林道で極めて普通に見られるようである。また四国(香川・愛媛)での分布も知られているが、筆者は下記のような徳島県産資料を検している。

徳島県一宇村小島峠, 5 exs., 10.VI.1999, 水野弘造 leg.; 徳島県木沢村剣山, 1♂, 18.VII.2000, 田辺真吾 leg.

*Ectinus insidiosus* (LEWIS, 1894) キアシクロムナボソコメツキ  
奈良市春日山, 1♂, 27.IV.2001.

*Ectinus sericeus sericeus* (CANDÈZE, 1878) カバイロコメツキ  
京都市左京区八瀬, 1♂, 1.IV.1993.

*Agriotes elegantulus* LEWIS, 1894 ヒメカバイロコメツキ  
奈良県吉野郡上北山村和佐又山, 1♂2♀♀, 28.VII.2001.

*Mulsanteus junior junior* (CANDÈZE, 1873) ヒゲナガコメツキ  
奈良市春日山, 1♂, 17.V.1992; 1♀, 24.V.2000; 大阪市東淀川区柴島~城北公園, 1♀, 14.III.2001; 兵庫県西宮市六軒町, 1♂, 7.VI.2000.

*Parallelostethus georgelewisi* W. SUZUKI, 1985 ヒメクロナガコメツキ  
奈良市春日山, 1♀, 30.VIII.1993.

*Dolerosomus gracilis* (CANDÈZE, 1873) キバネホソコメツキ  
福井県大飯郡高浜町青葉山, 1♂, 29.V.1993; 京都市左京区八瀬, 2♂♂, 1.IV.1993; 同・比叡山: 1♂, 1.V.1992.

*Lanecarus pallustris* (LEWIS, 1894) ニセクチプトコメツキ  
大阪府高槻市枚方大橋淀川, 1♂, 11.XI.1992.

*Glyphonyx dalopioides* NAKANE, 1958 クロスジクチボソコメツキ  
兵庫県西宮市甲武橋武庫川, 1 ex., 4.IV.2000.

*Silesis musculus musculus* CANDÈZE, 1873 クチプトコメツキ  
長野県下伊那郡阿智村昼神温泉, 3 exs., 1-2.VI.1992; 奈良県吉野郡上北山村和佐又山, 3 exs., 28.VII.2001; 同・奈良市春日山, 1 ex., 18.V.2000; 兵庫県養父郡大屋町氷ノ山坂ノ谷林道, 1 ex., 4.VIII.1993; 2 exs., 31.VII.1996; 1 ex., 19.VIII.2000; 同・宍粟郡波賀町音水溪谷, 1 ex., 29.VI.2000; 同・尼崎市武庫川甲武橋付近, 1 ex., 21.VI.1997.

*Melanotus legatus legatus* CANDÈZE, 1860 クシコメツキ  
大阪府三島郡島本町大山崎桂川右岸, 2♀♀, 18.VI.2000.

*Melanotus lewisi lewisi* SCHENKLING, 1927 ルイスタシコメツキ  
奈良市春日山, 1♀, 26.VII.2000.

*Melanotus legatoides* KISHII, 1975 ヒメクシコメツキ  
奈良市春日山, 1♀, 27.VI.1997; 1♂, 24.V.2000; 3♂♂, 13.VI.2001; 鹿児島県屋久島半山,

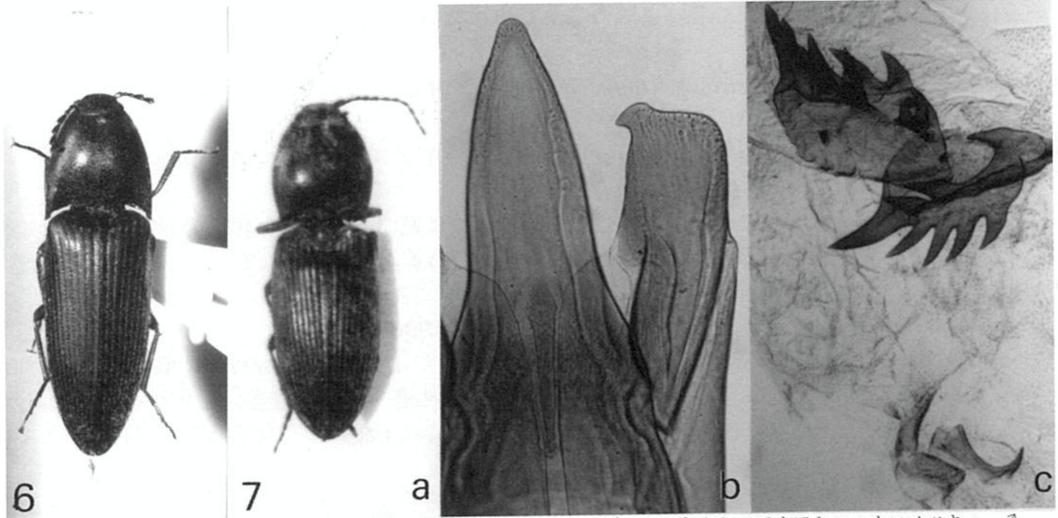


写真6-7. 6. ヤクアカハラコメツキ (♀, 屋久島半山, 14.3 mm); 7 ヤクシマアカアシコハナコメツキ a, ♂, 屋久島栗生浜, 6.8 mm; b, 雄交尾器先端 (同, 8154); c, ditto, 雌貯精囊内角質板 (同, 8155).

1 ♂, 15.VII.1992.

*Melanotus correctus correctus* CANDÈZE, 1865 ヒラタクロクシコメツキ

福井県大飯郡高浜町青葉山, 2 ♂♂, 26.V.1993; 5 ♂♂, 29.V.1993; 大阪府貝塚市和泉葛城山, 1 ♂, 16.VI.2001; 兵庫県宍粟郡波賀町音水溪谷, 1 ♂, 29.VI.2000.

*Melanotus annosus* CANDÈZE, 1865 クロツヤクシコメツキ

奈良市春日山, 1 ♂, 17.V.1992.

*Melanotus senilis senilis* CANDÈZE, 1865 クロクシコメツキ

奈良市春日山, 3 ♀♀, 11.VI.1993.

*Melanotus erythropygus erythropygus* CANDÈZE, 1873 コガタクシコメツキ

奈良市春日山, 1 ♂, 17.V.1992; 1 ♂, 20.V.1992; 1 ♂, 18.V.2000.

*Spheniscosomus cete cete* CANDÈZE, 1860 アカアシオオクシコメツキ

京都市左京区八瀬, 1 ♂, 1.IV.1993; 奈良市春日山, 1 ♀, 11.VI.1993; 兵庫県西宮市甲山湿原, 1 ♀, 30.V.2001.

*Spheniscosomus japonicus* (ÔHIRA, 1974) ハネナガオオクシコメツキ

奈良県吉野郡上北山村和佐又山, 1 ♀, 28.VII.2001; 兵庫県養父郡関宮町福定, 1 ♂, 27.VII.1993.

*Spheniscosomus koikei* (KISHII et ÔHIRA, 1956) ヒラタクシコメツキ

奈良市春日山, 2 ♂♂, 11.VI.1993; 兵庫県西宮市甲山湿原, 1 ♂, 30.V.2001.

*Spheniscosomus cribricollis* (FALDERMANN, 1835) オオクロクシコメツキ

奈良市春日山, 1 ♂, 13.VI.2001.

*Fleutiauxellus (Neomigiwa) quadrillum* (CANDÈZE, 1873) ヨツモンミズギワコメツキ

兵庫県西宮市能登町御祝川, 1 ex., 7.VI.2000.

*Cardiophorus pinguis* LEWIS, 1894 クロハナコメツキ

福井県大飯郡高浜町青葉山, 1 ♀, 29.V.1993; 奈良市春日山, 1 ex., 27.IV.2001.

*Cardiophorus niponicus* LEWIS, 1894 ホソハナコメツキ

奈良市春日山, 1 ♂, 11.VI.1993.

*Paracardiophorus tokara yakuensis* ÔHIRA, 1970 ヤクシマアカアシコハナコメツキ (写真7)

鹿児島県屋久島栗生浜, 2 ♂♂1 ♀, 14.VII.1992.

脚部が黄赤色のコハナコメツキ類は屋久島から2種記録され、それぞれ屋久島固有の亜種となっている。本亜種はトカラ諸島の中之島と宝島から記載された種の北限分布を示すものである。本島産のもう一種は北海道から南西諸島の多くの島の海浜地区に広く分布する *P. sequens* アカアシコハナコメツキの屋久島亜種 *P. sequens purpuratus* オオアカアシコハナコメツキで、この両者は生息域がほぼ同じで、かつ体形・色彩共によく似ているので一見したのみでは区分しにくい。しかし、雄生殖器側片先端部内方の形態は著しく異なり、雌貯精囊内の骨片形状も互いに異なるので、互いに別種であることは極めて明瞭である。

#### <引用文献>

- 平松広吉 1977. 和歌山県産コメツキ目科目録 III. 南紀生物 19(2): 69-72.  
 河上康子・稲畑憲昭 2000. 大阪湾沿岸地域における海浜・河口汽水域の地表性甲虫調査. 関西甲虫談話会資料 (16): 1-26.  
 KISHII, T. 1961. Elateridae of Is. Tsushima. "The snappers of island (II)". Bull. Heian High Sch. Kyoto (5): 1-56.  
 ——— 1998. Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (16). Bull. Heian High Sch. Kyoto (41): 1-28.  
 岸井尚 2000. 田中勇氏蒐集のコメツキ目について. ねじればね(100): 1-11.  
 LEWIS, G. 1894. On the Elateridae of Japan. Annl. Mag. Nat. Hist. 6 (13): 182-201.  
 MIWA, Y. 1934. The fauna of Elateridae in the Japanese Empire. Rep. Dept. Agr. Gov. res. Inst., Formosa, (65): 1-289.  
 高橋 匡 1964. 出石郡昆虫目録, 第1報. VITA (1): 1-34. 兵庫県立出石高等学校科学部生物班.  
 ——— 1975a. 豊岡高等学校昆虫標本目録, 第1・2報. 兵庫県立豊岡高等学校生物教室: 1-66.  
 ——— 1975b. 同上, 第3報. *ibid.*: 17.  
 ——— 1976. 同上, 第4報. *ibid.*: 8.  
 ——— 1978. 同上, 第5報. *ibid.*: 10.  
 ——— 1982. 但馬地方昆虫目録 (予報第7報). IRATSUME (6): 57-76.

\*\*\*\*\*

## 甲虫学者 中條道夫先生 逝く

A great coleopterologist, Prof. Emeritus, Dr. MICHIO CHÛJÔ, passed away  
 By Hiroyuki SASAI

佐々治 寛之

〒910-0206 福井県坂井郡丸岡町川上10-34

2004年6月9日、日本の戦前・戦後の甲虫界に偉大な足跡を残した中條道夫先生が、心筋梗塞によってお亡くなりになった。心からお悔やみ申し上げたい。先生は1908年9月13日の生まれで、東京に育つが、中学生の時、関東大震災に罹災し、家族は台湾へ行く。台北帝国大学農学部に進学し、卒業後も同大学農学部昆虫学教室で研究・教育に専念し、終戦を迎える。戦後は香川大学学芸学部(のち教育学部)に教授として赴任し、1972年3月に定年退職する(63歳)。その後しばらく名城大学農学部(名古屋市)に勤めるが、晩年は東京都大田区蒲田にお住まいで、1990年頃まで研究生生活を続けられた。80余歳まで論文を書かれ、95歳で亡くなられたのであるから、研究者として大往生と言わねばなるまい。

中條道夫先生の過去を偲びながら、昆虫学者としての業績を振り返ってみることにする。多少エピソードや私なりの感想を述べたいと思うが、公刊物の紹介に当たっては敬称を省くことを許していただきたい。最初の論文1930年から終戦1944年までの台湾時代と、戦後1948年以後に分けてみることにしよう。



図. 故・中條道夫博士.

左. 東京にて (1984年 6月30日). 75歳11カ月.

右上. マレーシア Ulu Langatにて (1974年 2月16日). 河野伊三郎氏撮影.

右下. 最後の台湾訪問 (1990年 1月).



## 1. 台湾時代

1930-31年に10編のトンボ目の報文を書いているが、1932年に「旧日本領土産ハムシ科の分類学的研究」(欧文を和文略記)に着手、1937年までの17編で一段落、そして台湾時代に都合50編のハムシ科論文を出している。しかし、中條の研究対象は大変に広範で、オオキノコムシ科、テントウムシ科など13の科に及ぶ。また、新種記載などの論文とは別に、文献集録による目録作りが得意で、そのような貢献は小さくなく、それは晩年まで続く。

中條のまとまった一連の貢献は、「日本動物分類」(三省堂)の積極的な執筆である。すなわち、「オオキノコムシ科」(1936年:193頁)、「マメゾウムシ科」(1937年:99頁)、「テントウムシダマシ科」(1939年:217頁)、「ツツキノコムシ科」(1939年:63頁)である。いずれも、科の概説、日本産全種の全形図と記載、文献表、種の目録と総説の形態をとっている。このシリーズの本では新種の記載はしないので、事前に学会誌等に公刊しておかねばならない。図にしても画工が描いてくれるわけではないから、大変な作業である。現在のような平和な時代ではない。国際状況はだいぶ危うくなっている時代である。中條先生から直接お聞きしたことであるが、「いつまで昆虫の分類など出来るか判らないという悲壮な気持ちで書いたんだよ」と……。

## 2. 戦後

1945年終戦。何もない所に台湾から引き揚げてきた。中條はハムシ科研究の再出発だったに違いない。事実、「台湾産ハムシ科分類学的研究」が1951年に始まり、1956年完結。このシリーズの1953-54年はハムシ科の包括的比較形態や生物地理学を取り扱っており、これらの一連の業績が学位の対象になったと思われる。戦後の中條の姿勢の特質は外国研究者との交流が深まり、中條自身の研究も国外の博物館の出版物で大冊を刊行しているし、東南アジアの甲虫を、欧米の研究者の協力を得て次々と発表、同時にデパートリーもますます拡張する。



左. 福井県白馬洞にて (1975年9月13日).

右. 高松市・栗林公園内の茶室「日暮亭」にて (1982年3月8日).



学術論文の価値そのものではないが、中條論文の付図の美しさである。例えば、解剖図などは線の太さを調節することによって見事に立体感を醸し出している。ある時、ハナノミ類のソフトな斑紋模様や緻密なゾウムシ類の彫刻の技法をお尋ねしたら、「これはね、ペンではない、極細の毛筆なんです」と老眼鏡の目を細められた。

中條は専門分野の中心はいうまでもなくハムシ科であるが、ハムシ以外で特別に関心が深かったのはオオキノコムシ科だったに違いない。それは前述の「日本動物分類」シリーズの最初のものがオオキノコムシ科であったし、晩年の大著「Fauna Japonica: Erotylidae」(1969年)、さらに最終業績ともいえる「旧世界のオオキノコムシ科目録」(1988-90)(中條道崇と共著)によって締めくくられる。また、特殊なものとして、いわゆる「エピラクナ問題」があり、過去の文献を徹底的に詳読し、現在ヤマトアザミテントウと呼ばれている昆虫の正体について考証し(1965年)、孔版ながらそれらの内容を印刷物として残している(B4判47枚、1973年?)。

香川大学退職にあたって作成された業績目録(1973年)によると、コウチュウ目271編、トンボ目22編、チョウ目7編、その他5編で、合計305編、この中には多数の単行本、目録類、図鑑類が含まれ、1973年以降にもかなり出されている。

以上、公刊された出版物を中心に述べてきたが、学会で、あるいは個人的に指導を受けた研究者は少なくない。私自身も学部学生の頃、高松の先生の研究室を訪問し、ご指導いただいたのを皮切りに、何かにつけお世話になった。最初にいただいたたくさんの先生の別刷の一つ、それは1953-54年のハムシ科の系統分類のものであるが、達筆な署名とともに、Oct. 18th 1957の日付が付記されている。オオキノコ、テンダマ、コメツキモドキ、テントウと、私に関心を抱いている甲虫は、中條先生の分野でもあった。お手紙もしばしば頂いた。右上がりの特徴のある大きな文字が懐かしい。

末筆ながら、先生の逝去を早々とお知らせくださった大澤省三先生と、若干の資料を下さったご子息の中條道崇氏にお礼申し上げますとともに、同じ甲虫研究者である朋友、道崇さんにはお悔やみ申し上げます。

## &lt;書評 Book Review&gt;

**Catalogue of Palaearctic Coleoptera Volume 1**

(Archostomata-Myxophaga-Adephaga)

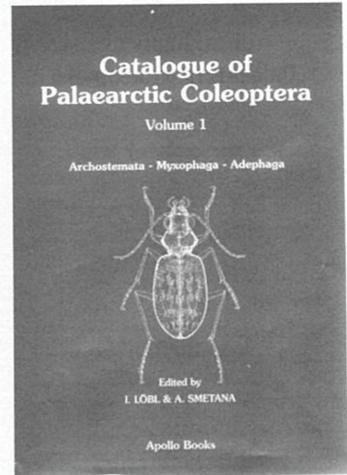
Edited by I. LÖBL &amp; A. SMETANA (2003).

Apollo Books Stenstrup, 819pp.

1997年以来、世界中の分類学者が参画して、旧北区甲虫カタログ出版プロジェクトが進められているが、2003年5月にその第1巻がようやく出版された。始原亜目・粘食亜目・食肉亜目からなり、約820頁の大冊である。食肉亜目以外はジュネーブの Ivan LÖBL が全て担当している。大部分を占める食肉亜目は500頁を占め、チェコの Karel HURKA がコーディネートし、著者の中にはベルリンの Fritz HIEKE, オタワの Yves BOUSQUET, ミュンヘンの Martin BAEHR など有名な専門家も見られる。

日本からは上野俊一博士と伊藤昇氏が、それぞれチビゴミムシの一部とゴモクムシの一部、クビナガゴミムシを担当している。本カタログは2000年末日までに記載された全タクサが一冊にまとまって入っており、研究者のみならず、愛好家にとって

も必須の貴重かつ便利な文献であるが、いくつか残念な点が見受けられる。筆者はゴミムシも好きであるが、図鑑で同定する程度のレベルであり、内容についての詳細なコメントする力はないが、利便性を中心に気のついた点を述べる。



上位分類群の扱いは、前提として CROWSON のシステムを採用することになっているが、亜族 (Subfamily) より下の分類群の扱いは各担当者に任せられ、そのまま掲載されているようで、タクサごとに関数レベルがかなり異なる。Platynini (ヒラタゴミムシ族) では、いわゆる *Colpodes* の扱いは未だにあいまいなようであるため、便宜上、従来は亜属として扱われていたタクサが全て機械的に属として扱われており、極めて多くの属に細分化されている。日本のいわゆる *Colpodes* を土生は *Agonum* として扱い、多くの亜属を設立したが、それらを全て属に昇格させている。このため我々日本人にはなじみのある、どう見ても同じ属であると思われる種が別属になっており、戸惑いの感はぬぐえない。更には別属になっているため、知りたい種を探し出すのに苦労する。例えば有名な *Colpodes sylphis* キンモリヒラタゴミムシを調べるためには、その小種名 *sylphis* を索引から引くことが出来ない。その所属の亜属が *Glaucagonum* であることを別の文献で調べる必要がある。

この不便さは、第一に種名索引が作成されていないことにあるが、*Colpodes* の分類学上の問題にも起因しているようで、しかたがないかもしれないが、分類学上の検討を進めてからチェックリスト作成をしてほしいところである。逆に極めて大きな1属にしている分類群もある。カタピロオサムシは *Calosoma* 属のみで扱われ、カタピロオサムシとセダカオサムシを除くいわゆるオサムシは *Carabus* 属でくくられており、またナガゴミムシの大半は *Pterostichus* 属として扱われている。*Carabus* の各亜属を独立属として細分化するかどうかは議論の分かれるところであろうが、先のヒラタゴミムシの各亜属に比べれば、はるかに形質の差異が大きく、ヒラタゴミムシの異常な細分化とは相容れないであろう。

族 (Tribe) 以下がアルファベット順になっている点も具合が悪い。分類体系は様々な意見があつて、統一されたものは無いにしても、JEANNELのシステムのように一般に認知されている体系を知っている研究者にとっては極めて不自然であり、系統順にたどって行けないため、探すのに苦労する。

一例を挙げるなら、Lebini (アトキリゴミムシ) の後ろに Licinini (スナハラゴミムシ族) が位置し、その少し後ろに Morionini (クチキゴミムシ)、Odacanthini (クビナガアトキリゴミムシ) が並べられ、Oodiini (トックリゴミムシ族) がその次に位置し、Pterostichini (ナガゴミムシ族)、Zabrini (マルガタゴミムシ族) と続き、そのすぐ後ろに広義のアトキリゴミムシの一族である Zuphiini が位置している。Callistini (アオゴミムシ族) はこれらより、はるか前に並んでいる。ゴミムシの分類体系を少しでも知っているものなら、全くもって不自然に感じるし、まさかそんなところにマルガタゴミムシが位置していることにも気付かないであろう。目的の虫にたどり着くのは、並大抵ではなさそうである。

また分布の記載について国名が略号になっている点がわかりにくい。例えば日本は JA、ネパールは NE、スイスは SZ、イタリアは IT といった具合である。略号を全て覚えるのは大変であり、その都度調べなければならぬ。特に小さな国が密集するヨーロッパやアジアとの隣接地域は不便極まりない。ただしその一方で、広大な領域を有するロシアや中国は、今まで以上に詳細に分けられており、各省ごとの分布記載により詳細な情報を得ることができる点は評価できる。

文献リストは原記載のみとなっている。この点は議論の分かれるところであろう。JUNK のカタログのように全文が掲載されると研究者にとっては極めて有益であるが、現在は当時に比べ膨大な情報量になっており、執筆者の負担が著しく重くなるため、おそらく完成はもう数年を要したであろうし、ページ数も膨大になる。最小限必要な内容を盛り込むことと、出版が急がれたことを鑑みると、仕方のない処置であろう。ひるがって、各文献はタイトル付きで名称は略せず、フルネームで巻末に著者のアルファベットおよび年次順に並べられ、かつ頁も論文全頁を掲載されていて、文献複写依頼の際に非常に利便性が高い。

編集上の不具合も感じる。属、亜属、種名が全て左端に位置づけされており、非常に読み取りにくい。属と亜属は太字にして目につくようになってはいるが、族名はセンタリングされているものの字体がローマンのまま、見落としやすい。活字の大きさは各タクサともほとんど同じであり、読み取りにくい。せめて各タクサランクに応じて、先端位置を少しずらせば、かなり見やすくなったはずである。この程度なら全体のページ数に影響はないと思う。また本カタログでは属名までしか索引がなく、これが極めて不便である。種名からたどることができないので、そこそ最新知識がないと使いこなせないことになる。

1 年程前にハネカクシの研究者である L. HERMAN が作成したリストは、Paederinae アリガタハネカクシ亜科、Aleocharinae ヒゲブトハネカクシ亜科が抜けている点が残念ではあるが、全体の体裁が格段に読みやすくなっており、分冊になっているが、種名までの索引があり使い勝手がよい。また、文献リストは原記載はもとより、分類関係のほとんどの文献が網羅されていて、極めて便利である。

本書は多くの研究者に呼びかけ、参画して出来上がった労作であり、昆虫学の研究者にとって貴重な文献である事は口を挟む余地が無い。しかしながら編集において、使い勝手への気配りがほしいところである。今後、他の分類群について順次出版されるであろうから、是非とも考慮いただきたいと考える。

#### 購入先

##### Apollo Books

Kirkeby Sand 19, DK-5771, Stenstrup, DENMARK

URL: <http://www.apollobooks.com> e-mail: [apollobooks@vis.cybercity.dk](mailto:apollobooks@vis.cybercity.dk)

または

##### PENSOFT Publishers

Acad. G. Bonchev Str., Bl. 6, 1113 Sofia, BULGARIA

URL: <http://www.pensoft.net> e-mail: [pensoft@mbox.infotel.bg](mailto:pensoft@mbox.infotel.bg)

(林 靖彦 Yasuhiko Hayashi: 本会運営委員)

## [虫屋の広場]

## ◎ 都道府県単位目録

## [和歌山県]

的場 績 2003. 和歌山県産甲虫類既報の整理 訂正と追加 6. KINOKUNI (63): 16-26.  
 ・36科142種. 削除1種. 総合計は112科3,069種. (水野弘造)

## [栃木県]

栃木県自然環境調査研究会昆虫部会編 2003. 「栃木県自然環境基礎調査 とちぎの自然 I」(735pp.), 「同 II」(557pp.). A4判. 栃木県自然環境課.  
 ・I, II と別の「土壌動物」編の部を加え, 合わせて21目 10,133 種. II が甲虫の部で, 110科 3,611 種. 県別昆虫目録では従来までの最多は埼玉県 (1999) の 9,360 種であった. コウチュウ目は, 神奈川県 (平野幸彦 2003) の 4,046 種に次ぐ種数である. (佐々治寛之)

## [岡山県]

岡山県生活環境部自然環境課 2003. 「岡山県野生生物目録」(岡山県環境保全事業団, A4判, 397pp.).  
 昆虫類: 45-264 (7,673種). コウチュウ目: 75-165 (3,120種).  
 ・岡山県の甲虫については, 山地 治 (1997) 「岡山県産昆虫目録-鞘翅(甲虫)目」(534pp. 株式会社ウエスコ: 2,732 種が掲載) により概要は判明していたが, 今回約 400 種の追加を含めての充実した目録となった. 分布域の簡単な表示がなされているが, 出典などを知るには, 山地 (1997) を参照しなければならない. 購入を希望される方は, 岡山県環境保全事業団のHPから注文が可能とのことである. (水野弘造)

ねじればね 110号 *Nejirebane* No. 110

2004年8月31日発行 31. Aug. 2004

発行者: 日本甲虫学会 (会長 佐々治寛之) The Japan Coleopterological Society

発行所: 日本甲虫学会 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付

Entomological Laboratory, Osaka Museum of Natural History, Osaka, 546-0034, JAPAN

振替口座: 00990-8-39672 URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>

Tel: 06-6697-6221 Fax: 06-6697-6225 E-mail: shiyake@mus-nh.city.osaka.jp

編集: 水野弘造, 林 靖彦, 谷角素彦, 初宿成彦, 保科英人, 伊藤建夫

ねじればね原稿送付先 (和文): 水野弘造 〒611-0002 宇治市木幡熊小路 19-35 Tel. & Fax 0774-32-4929

E-mail: kzmizuno@oak.ocn.ne.jp (E-mailでの投稿を歓迎します)

入会および会費問合せ先: 野村英世 〒590-0144 堺市赤坂台 1-18-5 Tel. 0722-98-4066 (年会費 5,000円)

昆虫学評論 原稿送付先 (英文): 安藤清志 〒534-0023 大阪市都島区都島南通1-17-1 大榮商会